

奄美野生生物保護センター
ニュースレター

奄美の風だより



「梅雨はいつくるのだろう？」と天気予報を毎年こまめにチェックをしていましたが、今年はチェックをする間もなく梅雨に入っていました。しかし、梅雨らしくない天候が続き、朝夕は寒く、なんだか拍子抜けです。

上の写真は2004年に新種として記載された「ワダツミノキ」です。真ん中の白いものが花です。奄美大島の固有種で、20本ほどしか確認されていないそうです。奄美群島にはその島にしか生育していない植物がたくさんありますが、絶滅したものや絶滅寸前のものもあります。数が減っている理由として、開発などの問題もありますが、もう一つの大きな問題は採取や盗掘です。奄美では植物が採取・盗掘された跡が度々発見されています。そのため、市町村や警察が協力をしてパトロールの強化をしています。毎日隅々までパトロールをすることはとても困難です。島民一人一人の目と意識の改善がこの問題を解決する方法の一つです。奄美のすばらしい自然を次世代まで残すため、みんなで協力をしていきましょう。

(吉田)



奄美の初夏の動植物



ギーマ

日当たりのよい尾根筋などに生える常緑低木で高さ1～3mに達する。下垂する花を多くつける。



ハママンネングサ

海岸近くに生える多年生草本。本種はかつて奄美各地にごく普通に見られたが護岸工事などにより激減した。準絶滅危惧種。



ヤツガシラ

頭に大きな冠羽をもっていて、通常は折りたたんでいるが、興奮すると扇のように開く。奄美では数少ない旅鳥として春先や夏に渡来する。



イシガケチョウ

広くアジアに分布し日本がその北限となる。成虫は、各種の花で吸蜜するほか、動物の死体やフンにも好んで集まる。



アオウミガメ



上陸跡 (アカウミガメ)



子ガメ

今季の一枚 「ウミガメ」

鹿児島県は日本一のウミガメの上陸産卵地となっています。奄美群島には主にアカウミガメとアオウミガメが産卵のため上陸しますが、2002年に日本で初めて瀬戸内町でオサガメの産卵が確認されました。また、タイマイの産卵地の北限が沖縄とされてきましたが、加計呂麻島で産卵が確認されたりと、奄美群島はウミガメの重要な産卵地の一つとなっています。

産卵のシーズンは5月～8月です。いつまでもウミガメが奄美を訪れるよう、美しい砂浜を残していきましょう。

生きもののいる風景

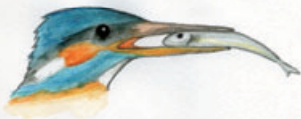
～カワセミのフィールドノート～



4月

今回は、奄美でカンドリ（神鳥）と呼ばれ身近な鳥であるカワセミの繁殖行動を見てみましょう。カワセミが繁殖するために必要な環境はどういったものなのでしょう？ カワセミから奄美の自然を見つめてみましょう。

注意！！



魚を食べる時は頭から丸飲みします。これは喉にウロコやエラが引っかからないようにするためです。メスにプロポーズする時や生まれたヒナにエサを与える際は、食べやすいように頭を相手に向けて渡します。ザリガニを与える時ははさみを取り、しっぽから与えます。奄美ではタナガを与えているのでしょうか？



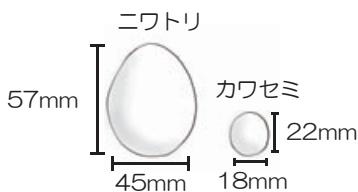
カワセミは英語でking fisher（魚捕りの王様）と呼ばれています。その名の通り、魚をとるのが大変上手です。



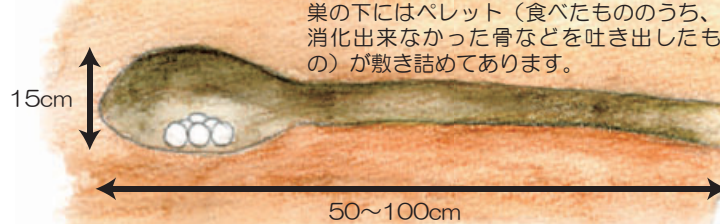
5月

巣作りと子育て

巣は土の崖などに作られます。巣作りは主にオスの仕事で、巣が出来上がるまで約10日かかります。いくつかの巣を作り、メスが気に入った巣で産卵・子育てを行います。その間オスはメスにエサをプレゼントします。オスは大忙しです。



白くて丸い卵を産みます。



巣の下にはペレット（食べたもののうち、消化出来なかった骨などを吐き出したもの）が敷き詰められています。

入り口は5×5cmほど。とても狭いので1羽通るのがやっとです。

抱卵はメスとオスが交互に行います。メスの方が長い時間抱卵します。抱卵期間は約20日間、孵化してから巣立つまで約24日間かかります。カワセミは大体年に2回の子育てを行い、1回目の子育ての最中に2回目の巣作りと子育てが始まります。

ヒナのエサのもらい方



巣の入り口に近いヒナがエサをもらいます。

エサをもらったヒナは、通路へ向けてフンをします。これは巣穴を清潔に保つためです。

フンをし終わったら、巣穴の奥に行き体の向きを変えます。次に入り口近くのヒナがエサをもらいます。

注意！！

人は、動植物の性質や形態を利用したり参考にしたりして薬や物を作ってきました。カワセミの形態も利用され、人の生活を豊かなものにしています。

水着



細かい凸凹がある羽をヒントに作られた競泳水着があります。細かい凸凹が水の流れを整え、水の抵抗を少なくします。

新幹線「500系 のぞみ」



新幹線がトンネルに入る際、騒音やゆれが生じてしまいます。そこで、カワセミが水に飛び込む時の様子が参考にされました。くちばしから頭部にかけての形が水の抵抗を少なくしています。

エサの捕り方

カワセミは魚や昆虫を食べます。魚を捕る時止まれる木がない場合、水中の獲物の狙いを定めるため「ホバリング」と、と呼ばれる飛び方をします。これは、空中で羽を前後に動かして停止するように飛ぶことです。



「ホバリング」



事務補佐員がかわりました。

今年4月から、勝間田さとみさんの後任として奄美野生生物保護センターの事務補佐員を勤めます奥田幸恵（おくだ さちえ）です。沖縄出身ですが、今ではすっかり奄美人（あまみんちゅ）です。奄美の自然がどれだけ素晴らしいか、そして現状はどうなのか、私自身これから勉強しなくてはいけないことだらけですが、早く仕事を覚えて、奄美の自然を守っていく手助けが少しでもできたらと思っています。頑張っていきますので、よろしくお願いいたします。

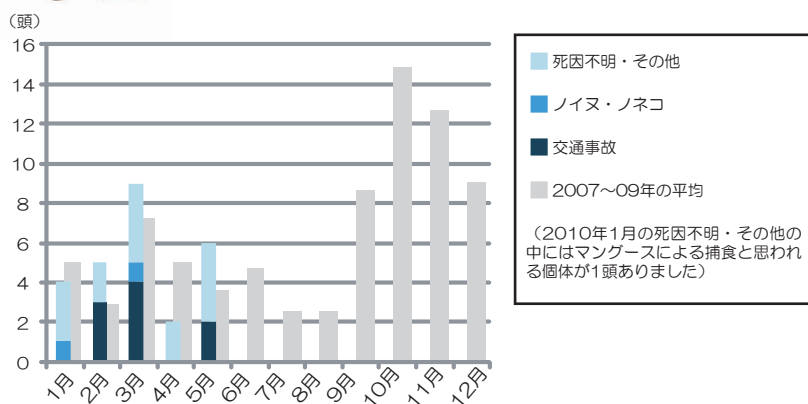


わきゃあまみ第9弾 生物多様性って？ ～奄美群島からみてみよう～

配布を開始しました。主に奄美群島の子供や役場などに配布をしていきます。まだ余部がありますので、欲しい方はご連絡下さい。



アマミノクロウサギ死体確認数



2010年 アマミノクロウサギの死体確認数と死因

アマミノクロウサギのために、
あなたができること

安全運転

林道では、20km/h以下で走行しましょう。

犬・ねこの適正飼育

最後まで責任を持って飼いましょう。

※アマミノクロウサギがケガをしていたり、死んでいるのを発見したら奄美野生生物保護センターまで連絡して下さい。



オオキンケイギクについて

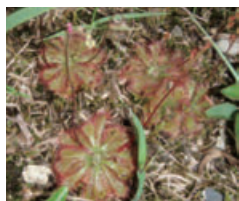
道路や空き地などさまざまな場所で黄色い花を咲かせているオオキンケイギク。以前は法面緑化などで使われていた植物ですが、2006年に「特定外来生物」に指定され、栽培・運搬・販売・野外に放つことなどが禁止されています。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

※「特定外来生物」については環境省ホームページをご覧ください。

【<http://www.env.go.jp/nature/intro/index.html>】



生きもののおもしろ写真館



コモウセンゴケ

葉に赤い毛のようなものが生えているこの物体の正体は、食虫植物のコモウセンゴケです。食虫植物なんて、滅多にお目にかかれないと思っていましたが、身近に生えているようです。

編集後記



梅雨の時期、朝に寒くて目が覚めるなんてビックリです。スモモの出荷が始まりましたが、気温が低いためになかなか熟さないそうです。農業に大きな打撃を与えなければよいのですが…。